

## 第153回エイズ動向委員会

## 委員長コメント

## 《令和元年（平成31年） 第1・第2四半期》

## 【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年12月31日～平成31年3月31日（以下A、前年同時期を $\alpha$ とする）  
平成31年4月1日～令和元年6月30日（以下B、前年同時期を $\beta$ とする）の約半年
2. 新規HIV感染者報告数は (A) 211件及び (B) 217件 (( $\alpha$ )207件及び( $\beta$ )219件)
3. 新規AIDS患者報告数は (A) 69件及び (B) 78件 (( $\alpha$ )83件及び( $\beta$ )99件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は (A) 280件及び (B) 295件

## 【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが (A) 154件及び (B) 164件  
(新規HIV感染者報告数の (A) 約73%及び (B) 約76%)
  - 異性間性的接触によるものが (A) 35件及び (B) 23件  
(新規HIV感染者報告数の (A) 約17%及び (B) 約11%)  
そのうち (A) は男性26件、女性9件 (B) は男性18件、女性5件
  - 静注薬物によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 母子感染によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 年齢別では、20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが (A) 29件及び (B) 42件  
(新規AIDS患者報告数の (A) 約42%及び (B) 約54%)
  - 異性間性的接触によるものが (A) 18件及び (B) 15件  
(新規AIDS患者報告数の (A) 約26%及び (B) 約19%)  
そのうち (A) は男性16件、女性2件 (B) は男性13件、女性2件
  - 静注薬物によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 母子感染によるものは (A)、(B) 共に0件
  - 年齢別では、30～40代が多い。

## 【検査・相談件数の概況（平成31年1月～令和元年6月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は (A) 27,160件及び (B) 26,520件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )20,501件及び( $\beta$ )22,871件)  
自治体を実施する保健所以外の検査件数は (A) 9,426件及び (B) 9,196件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )7,803件及び( $\beta$ )8,462件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 34,136件及び (B) 32,565件  
(前年同時期確定値( $\alpha$ )29,635件及び( $\beta$ )30,261件)

## 【献血の概況（平成31年1月～令和元年6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,377,994件（前年同時期2,335,128件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は19件（前年同時期21件）  
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.799件（前年同時期0.899件）

## 《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数を前年同時期と比較すると、第1・第2 四半期ともにほぼ横ばいだった。新規A I D S患者報告数については、第1・第2 四半期ともに前年同時期より減少した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、令和元年（平成31年）上半期の新規H I V感染者は20～40代、新規A I D S患者は30～40代で報告数が多かった。10歳代の新規H I V感染が報告されている一方で、70歳以上の新規A I D S患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. H I V抗体検査件数及び相談件数については第1・第2 四半期ともに前年同時期より増加した。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名H I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。